

令和4年度食産業の戦略的海外展開支援事業  
(インド国モデルファーム事業の運営・  
モニタリング及び関連委託事業)  
最終報告書

2023年3月

八千代エンジニアリング株式会社

# 目次

目次	2
最終報告書（概要版）	3
1. グジャラート州J-Methods Farming.	8
1-1. 今年度の体制.	8
1-2. 全体スケジュール.	9
1-3. コミュニケーション.	9
1-3-1. 参画企業.	9
1-3-2. 輸出・国際局.	20
1-3-3. SEWAおよびサグリ.	21
1-4. 栽培実証計画策定.	21
1-5. 栽培実証.	24
1-6. 販売実証計画策定.	30
1-7. 販売実証.	31
1-7-1. BentoBによる販売.	31
1-7-2. SEWAによる販売.	32
1-7-3. 販売実証の結果および考察.	33
1-8. 収穫セレモニー.	34
1-9. その他活動.	35
1-9-1. JMFウェビナー.	35
1-9-2. 日印官民合同シンポジウム.	36
1-10. 今年度の成果および課題.	36
2. ウッタル・プラデシュ州における実証・普及強化に向けた連携.	37
2-1. 経緯および調査概要.	37
2-1. CSAU大学訪問.	37
2-2. 州政府関係者面会.	40
2-3. 今後の取り組み方針.	41
3. 事業報告会開催.	42
Appendix	48
GJ州モデルファーム栽培記録.	48
令和4年度インド国モデルファーム事業（JMF）の進め方について.	60
2022年9月9日参画企業配布資料.	63
2022年11月24日日印官民合同シンポジウム発表資料.	75
2023年1月5日参画企業配布資料.	89
UP州とのMoC.	96
参画企業によるGJ州でのイベントの様子.	104

# 最終報告書（概要版）

# 1. GJ州 モデルファーム事業

## 事業実施体制および参画企業

- ◆ 2019年より農水省の委託事業としてGJ州アナンド市郊外の実証圃場で実施
- ◆ プロジェクト管理者は八千代エンジニアリング、現地業務はサグリに再委託した上で、耕作・肥培管理はNGOであるインド女性自営協会（SEWA）が担当
- ◆ 前年度からの継続企業を中心に18社の日本企業が参画

## 事業趣旨・目的

- ◆ 日本企業の資機材や技術等の実証を行う「日本モデルファーム」の設置により、日本の農業技術の優位性を実演
- ◆ 日本企業のインドへの進出・定着の機会とし、日本企業の技術及び製品等のインドでの導入促進を図る

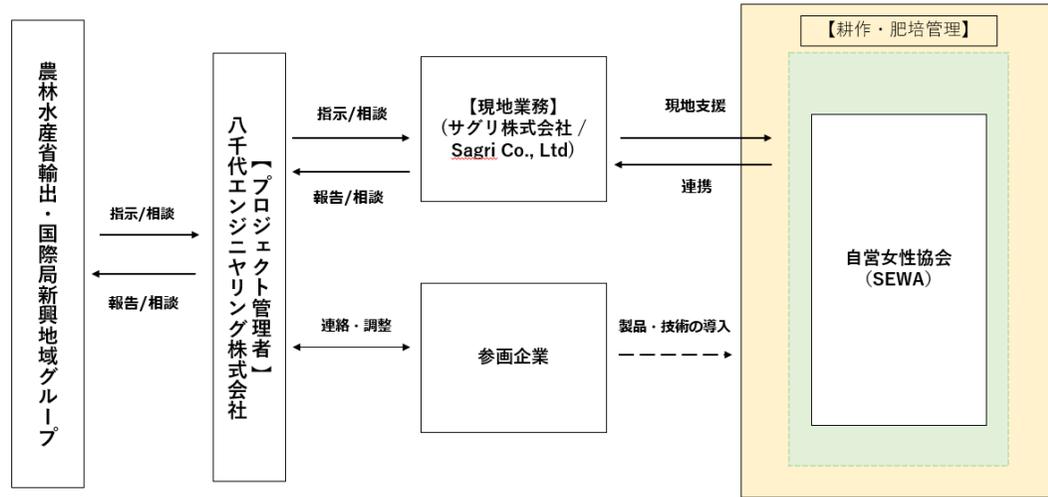
## 実証圃場

- ◆ グジャラート州アナンド（GJ州の州都アーメダバードから車で1時間20分）
- ◆ 2区画計0.36ha

プロットA	ミニトマト
プロットB	カリフラワー、大根、かぼちゃ、スイカ



＜GJ州事業実施体制図＞



＜参画企業：18社＞

企業	商品・技術
1 株式会社エンブラス	節水機能を持つ圧力補正が可能な点滴灌漑チューブ
2 JFE スチール株式会社	水稻直播用コーティング鉄粉「粉美人」
3 日産スチール工業株式会社	青果物の鮮度保持シート「Freshmama」
4 国土防災技術株式会社	フルボ酸を高濃度に精製した植物活性剤「フジミン」
5 日本農業株式会社 Nichino India Private Limited	チョウ目等に対して高い殺虫性を示す「Katana」等各種農薬
6 小泉製麻株式会社	害虫を忌避する「虫フラットシート」、「虫フラットとネット」及び「涼風」
7 株式会社デンソー	保冷輸送システム（冷蔵・温度調整機能付のクーラーボックス）
8 Japan Vegetable Seeds Co., Ltd	日本品種の種子（ミニトマト）
9 株式会社アグレス	営農に関する知見
10 株式会社太陽 TAIYO INDIA PVT.LTD.	高整地性・高耐久性・省馬力の耕うん爪「青い爪」
11 ニシム電子工業株式会社	IT センサーによる圃場データの遠隔確認システム「MIHARAS」
12 Wismettacフーズ株式会社	青果物の販売・流通に関する知見
13 グローバル・マーケティング・アソシエーション株式会社	インドールから作成される有機化合物の植物成長剤「SOMRE」
14 グランドグリーン株式会社	安定した苗の大量生産を可能とする「接木カセット」
15 ミヤチ株式会社	太陽光発電システム及び太陽光を利用した「噴霧器（Solar Spray）」
16 アクブランタ株式会社	果菜類・葉菜類用バイオスティミュラント「スキーパーン」
17 協和建設工業株式会社	浅層部に吸水管を埋設し水田等の農地汎用化を図る「シートパイプ工法」
18 TOMATEC株式会社	マンガン・ホウ素等の6要素をフリット化した総合微量元素肥料「F・T・E」

**栽培品目** ◆ 日本の品種を活用したカリフラワー、ミニトマト、大根、かぼちゃ、スイカを耕作（5作物8品種）

品目	2022年					2023年			
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
カリフラワー			播種	定植	収穫				
ミニトマト			播種	定植		収穫			
大根					播種		収穫		
かぼちゃ					播種				収穫
スイカ						播種			収穫

※3月の豪雨被害により生育が遅延し、かぼちゃ、スイカの収穫時期が1か月延長（収穫が4月となった）

**<試験品種>**

※ 種子は、参画企業のジャパン・ベジタブル・シード（JSV）に加え、日系種苗会社で既にインドに進出しているサカタ・シード・インディア、トキタ・シード・インディアからも調達



トマト (3201)



トマト (サンチェリー)



カリフラワー (ホホワイトクリスタル)



大根 (2022)



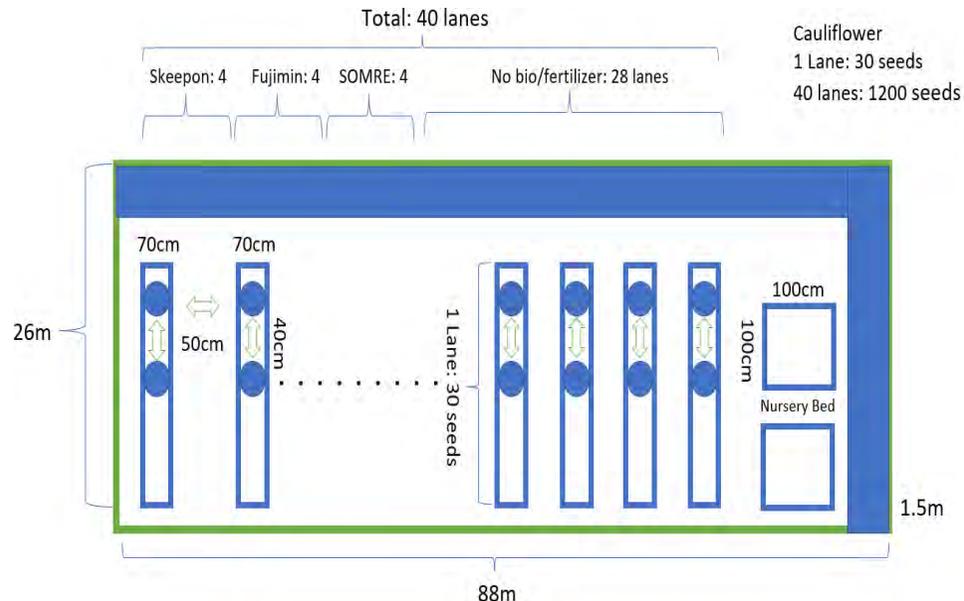
かぼちゃ (Bhima)

**栽培実証**

◆ 資材の施用効果を実証するため、各作物・品種とも、資材別に対象区（無施用）と施用区を設けて比較栽培（1反復のみ）。

⇒ いずれの資材においても、資材施用区の生育は対象区と比較して旺盛な傾向がみられ、カリフラワーでは30%~40%の増収効果がみられた（右図参照）

**<圃場デザイン：カリフラワーの例>**



**<生育状況（収穫量）比較データ：カリフラワーの例>**

